

# 令和元年度 授業改善推進プラン（留意事項）

教科	授業改善のための具体的な取組	学校として位置付けている授業改善のための具体的な取組の目標値や評価規準等	今年度の評価や修正点
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝学習や定期的な小テストを活用し、漢字や言語事項等の基礎・基本を身に付けさせる。</li> <li>・学校全体で読書活動を活発にし、児童が多くの作品に触れ心情を豊かにするとともに、語彙を獲得する機会をもたせる。同時に、国語への興味・関心を喚起していく。</li> <li>・校内研究では、文学的文章を教材とし、主題に迫る深い学びを実現できるよう、対話的な学びを工夫した授業づくりを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学期毎のまとめの漢字テストで、80%以上の児童が90点以上得点できるようにする。また、再テストを実施し、全員が90点以上正答できるようにする。(全学年)</li> <li>・年2回読書旬間を設定し、80%以上の児童が、読書記録の学年目標を達成できるようにする。(全学年)</li> <li>・場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む。自分の考えをもち、表現できるようにする。また、友達のと比較することができるようにする。(低)</li> <li>・登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて叙述を基に想像して読む。自分の考えをもち、分かりやすく表現できるようにする。また、友達のと比較することができるようにする。(中)</li> <li>・登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえて読む。自分の考えをもつとともに、友達と考えを交流し、深めることができるようにする。(高)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学期毎のまとめの漢字テストでは、初見で90点以上とれた児童の割合は学年が上がるにつれ減っていく傾向があるが、再テストでは90%以上の児童が90点以上をとることができた。特別な支援が必要な児童も増加しているため、再テスト時の目標値を「90%以上の児童が90点以上正答」に修正する。</li> <li>・読書の学年目標の達成率については、学年によって差があった。読書時間の確保や記録の仕方の支援するとともに、教科の関連図書を身近に置く等の工夫が見られる。図書室での全読書量は昨年度より増加した。一方で各学年の読書量には差が見られた。</li> <li>・読むことについては、全学年で目標を概ね達成できた。また、少人数で話し合う活動を多く取り入れることで、自分の考えを広げたり、深めたりするとともに、すすんで自分の考えを発表する児童が増えた。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活経験から課題を見出せるよう導入を工夫する。地図や写真など児童にとって身近な視覚的教材を使用し、学習内容を着実に定着させるようにする。(中)</li> <li>・社会的事象の意味について考える力、調べたことや考えたことを表現する力を伸ばすため、複数の資料を関連付けて読む課題を設定する。ノートに記述された考えを評価したり、小集団での話し合い等を取り入れたりすることで自分の考えに自信をもたせるようにする。(高)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元テストの知識・理解の観点で、80%以上の児童が、平均正答率90%以上となるようにする。(中・高)</li> <li>・一人一人が課題を設定し、その理由を意識して取り組めるようにする。地域の様子に関心をもって学習に取り組めるようにする。(中)</li> <li>・個々に設定した課題を解決するために有効な資料を見つけ、学習のまとめや発表に活用することができるようにする。(中・高)</li> <li>・課題の追究や解決に適した資料の選択や資料化する際の表現の仕方について、友達の作成した作品の優れた部分を参考にすることができるようにする。(中・高)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識・理解の観点で70～80%程度の児童が知識・理解の観点で90%以上の得点ができるようになった。「80%以上の児童の平均正答率90%」達成のため、自主学習を通して習熟を図る。(中・高)</li> <li>・地域の様子に関心をもって学習に取り組ませることができた。(中)</li> <li>・社会科見学を通して実際の現場を見学したり企業の方の話を開いたりすることで、学習のまとめや発表にいかすことができた。(高)</li> <li>・定期的に友達と交流する活動を通して、自分の考えを分かりやすくノートなどに表現できる児童が増えた。また、交流を通して友達の作品を参考にしながら、よい部分を自身のまとめに取り入れる姿も見られた。(高)</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の場面と関連付けた問題場面を意識する。(低)</li> <li>・習熟度別クラスにおいて、集団に応じて課題を変更したり、個別指導をしたりし、基礎基本の定着を図る。(中・高)</li> <li>・自力解決と検討場面での手立てを工夫し、思考力を高める。(中・高)</li> <li>・自分で考える時間を確保し、言葉・図・式を用いて表現させる。(全)</li> <li>・基礎・基本の習熟のために、毎時間3分程度計算練習に取り組む時間を設ける。学期ごとに東京ベシックドリルを活用するとともに、かけ算九九の習熟状況調査を行って実態を把握し、指導に生かす。(全)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元で複数回、自分の考えを絵や図を使って分かりやすく説明することができるようにする。(低)</li> <li>・補充コースでは、つまずきの見られる課題において以前の学年の内容に戻って習熟し、反復練習によって基礎基本を身に付けられるようにする。(中・高)</li> <li>・発展コースでは、自分の考えを図や式などを使って説明させ、検討場面において理解を深められるようにする。(高)</li> <li>・各学期ごとに行う、東京ベシックドリルにおいて診断シートの正答率平均90%(低・中)80%(高)を目指すと同時に、九九100問計算では、一年を通して正答率を高め、計算タイムが短縮できるようにする。(全)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクターを用いて、児童のノートを提示することで絵や図を用いた分かりやすい説明の仕方を共有することができた。(低)</li> <li>・補充コースでは反復練習によって基礎基本を身に付けることができた。(中・高)</li> <li>・発展コースでは、自分の考えを説明することを大事にした授業展開をしたが、児童の学習意欲に個人差があり、コース編成等に改善を図った。(高)</li> <li>・2学期末実施の東京ベシックテストの診断シートの正答率が、低中高ともに目標値を10%ほど下回る結果になってしまったが、大問内の小問が一つでも誤答だと配当点数が0になってしまうベシックテストの特性も加味すると、小問の数における正答率は結果以上とみることができた。今年度の目標正答率の設定が適切だったが見直す必要がある。一方で、単位の読み間違いや書き忘れなどが多く、正答率を大きく下げているため、見直しの仕方など、細やかな指導が課題である。九九100問計算では、一年を通して正答率を高め、計算タイムが短縮することができた。(全)</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動前に、何を調べるために行う実験や観察のかを考えたり、予想を立てて話し合ったりする時間をとる。学んだことが知識として定着するよう繰り返し練習問題を解く。(中)</li> <li>・実験の予想を立てる際には自分の生活体験を想起させ、関連付けられるようにする。結果や考察を自分の力でまとめることができるようノート指導を行う。実験後、教科書や映像資料で用語等を再確認し、知識の定着を図る。(高)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元テストの知識・理解の観点で、80%以上の児童が、平均正答率90%以上となるようにする。(中・高)</li> <li>・身近な自然の様子や事象に関心をもち、観察・実験を通し、意欲的に学習できるようにする。(中)</li> <li>・課題、予想、方法、実験の結果、考察の流れで、ノートにまとめることができるようにする。(中)</li> <li>・自分の生活体験を基に予想を立て、結果を正確に捉えて考察ができるようにする。(高)</li> <li>・互いの考えを交流し、多面的に物事を捉え考えることができるようにする。(高)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体で課題を設定し、その理由を意識して取り組めるようにした。単元のまとめで、用語の確認や補足プリントを活用し、定着を図ることができた。(中)</li> <li>・ノート指導を継続してきたことで、課題・予想・手立て・結果・考察の流れでまとめることのできる児童が増えた。(中)</li> <li>・既習事項や生活体験から結果を予想する児童が多く見られた。生活経験との結びつきも今後生かしていきたい。(高)</li> <li>・実験の課題を明確にして、日常生活と関連させながら予想を立て、実験に取り組むことができた。毎時間、確認ミニテストを行ったり、映像資料で用語等を確認したりすることにより知識の定着が見られた。(高)</li> </ul>
生活科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然体験や生活経験を増やしていけるように、体験的な活動を多く取り入れていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見学や体験活動を計画・準備し、見通しをもって、楽しみながら活動できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・滝坂の森を中心に、楽しみながら校内の自然に触れることができた。(1年)</li> <li>・見学や体験活動を通して、学習に主体的に取り組む姿が多く見られた。(2年)</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しみながら音楽の基本的な力が身に付くよう、音楽遊びや身体表現を取り入れる。(低)</li> <li>・美しい声や美しい音色を表現できるよう、個別指導を充実させる。(中)</li> <li>・発達段階に応じた教材を選択するとともに、児童の自主的な学びをねらった授業を行う。(高)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拍感・リズム感・音程感を身に付けられるよう、身体を使った表現を多く取り入れたり、友達と一緒に活動したりして、音楽の楽しさを感じできるようにする。(低)</li> <li>・友達の発声のよさや、様々な発声の仕方にも注目しながら、自然で無理のない発声法を感じるようにする。(中)</li> <li>・少人数による活動や音楽的な行事を通し、協力して活動するとともに、自らの表現を他と合わせる喜びを感じられるよう、教材及び活動の工夫を行う。(高)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体表現や歌詞等に注目しながら、音楽の楽しさを感じることができた。(低)</li> <li>・自分の思いや意図を生かしながら、ミュージカルや歌劇など、いろいろな声の出し方や、自然で無理のない声で歌う楽しさを感じるようになってきた。(中)</li> <li>・音楽への自分の思いや意図を生かして表現するために、音楽を形づけている要素に着目しながら活動した。また、高学年として、各行事で表現活動を通し、下学年の模範となるような発声についても技能面での向上が見られた。(高)</li> </ul>
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・準備や導入を丁寧に、学習のめあてを明確に理解させ、一人ひとりに見通しをもたせる。</li> <li>・各学年の発達段階を考え、多様な材料や表現方法を提示し、児童の制作意欲を高める。</li> <li>・自分の発想を大切に表現できるように支援する。</li> <li>・材料や道具の安全な使い方を丁寧に指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・造形活動の基礎基本を身に付け、表現を楽しめるようにする。(低)</li> <li>・自分の想いを大切に多様な表現活動を展開できるようにする。(中)</li> <li>・様々な材料や表現方法を使いながら自分の発想や表現を深められるようにする。(高)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な題材を経験し、表現を楽しむことができた。(低)</li> <li>・自らの考えを持ち、多様な表現を展開することができた(中)</li> <li>・既習した表現方法を使いながら、自分の発想や表現を深めることができた。(高)</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各領域の運動をバランスよく取り入れるとともに、楽しみながら運動に取り組むことができる授業を展開する。(低)</li> <li>・児童全員が楽しむことができるように教材を工夫し、すすんで運動に取り組むことができる授業を展開する。(中)</li> <li>・児童同士の見合いや教え合いを通して、自分のめあてを決めて課題を解決していく授業を展開する。(高)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しく運動を取り組み、基本的な動きを身に付ける。(全)</li> <li>・自己の能力に適した課題をもち、水泳では、各学年の目標達成率が80%以上となるようにする。また、マラソン週間では、児童が各学年の目標を達成できるようにする。(全)</li> <li>・学習カードを充実させ、課題解決の仕方を知り、友達と助け合って運動に取り組めるようにする。(高)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を明確にし、どの児童も今もっている力で取り組むことができる学習内容を考えた。児童が動きをもつと工夫できるような発問や場を考えていきたい。(低)</li> <li>・楽しく運動に取り組む、基本的な動きを身に付けることができた。(中)</li> <li>・毎回、授業の終末で振り返りを記入することにより、友達との間わりや相手の良さに気付くことができた。また、自分自身や友達の課題にも気付く児童がいた。(高)</li> <li>・マラソン週間の目標達成率は全学年を通して高かった。水泳は、6月の長雨や夏の高温のため、実施回数が少なく目標達成が難しかった。(全)</li> </ul>
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の技能に合わせた課題を用意し、実生活に役立つ作品作りに取り組ませることで、意欲的に基礎的な裁縫の技術を習得できるようにする。</li> <li>・衣食住などに関する実践的・体験的な活動を授業に取り入れることで、日常生活に必要な基礎的な知識を身に付けられるようにする。</li> <li>・視覚的に捉えられるように師範をしたり個別指導をしたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭生活に関わる題材を設定し、目的意識をもって取り組めるようにする。</li> <li>・衣食住に関わるような知識を理解し、家庭生活で活用できるような技能を身に付けられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事の役割や体に必要な栄養素を理解したことで、日常の食事の大切さを実感し、関心をもって調理実習に取り組むことができた。</li> <li>・衣食住の知識を理解し、調理や裁縫などの技術に身に付けることができた。特に、生活に役立つ物の製作を通して、80%以上の児童が、目的に応じた縫い方を考え、手縫いやミシンを用いた直線縫いなどの基本的な技能を身に付けることができた。また、実際に休日等に家庭でやってみたことを報告する児童も多かった。</li> </ul>